

# スギ、ヒノキ人工林内に生育する有用広葉樹の生育分布と利用

農林水産研究センター林業試験場

現在、抜き伐り等を行いながら長伐期に移行する長期育成循環施業や、不適地造林地では、針広混交林へと誘導する森林整備が行われているが、人工林に生育する有用広葉樹については、樹種や分布、また利用・用途が知られていないため、これまでほとんど利用されていなかった。

今回、県内の人工林に生育する有用広葉樹の分布や市況等が明らかになったことで、今後、こうした潜在的な有用広葉樹を生かした森林づくりが可能となった。

## 【普及したい技術のポイント】

- ①人工林内に確認された有用広葉樹は計93種で、1林分当たり平均7.1種の有用広葉樹が見られ、シロダモ、ヒサカキ、タブノキ等の樹種は、県内の幅広い地域に分布していた。
- ②有用広葉樹の種子の散布様式は、動物散布型の種子が61.3%と最も多く、近隣に広葉樹林のない人工林地帯においても、有用広葉樹が侵入してくる可能性は高いことが示唆された。
- ③市場で取り扱われる有用広葉樹は、ケヤキ、ヤマザクラ、カシ類が多く、主な用途として、ケヤキ、ヤマザクラは建築材、カシ類、シイ類は器具材（柄材）として需要が高かった。

## 【有用広葉樹の生育分布と特徴】

スギ、ヒノキ人工林 91 箇所で見られた有用広葉樹は図 1 のとおりで、特にシロダモ、ヒサカキ、タブノキ等の樹種は、スギ、ヒノキ林に関係なく、県内に幅広く分布していた。今回確認された有用広葉樹は計 93 種で、1林分当たり平均 7.1 種が生育しており、植生のある人工林内には何らかの有用広葉樹が見られる可能性が高いことが分かった。有用広葉樹の種子の侵入様式は、動物散布型の種子が 61.3 % と最も多く（図 2）、近隣に広葉樹林のない人工林地帯においても、こうした有用広葉樹が侵入してくる可能性は高いことが示唆された。

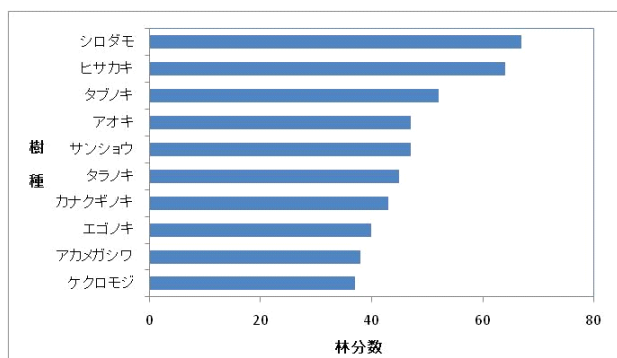


図 1 よく見られる有用広葉樹（上位10種）

## 【有用広葉樹等の市況】

県内および近県（福岡県、熊本県、宮崎県）の木材市場に流通する有用広葉樹の市況等に関する調査の結果、ケヤキの取扱量が最も多く、価格的にも他の樹種と比較して高い傾向がみられた。その他の樹種としては、ヤマザクラやカシ類、シイ類の取扱量が多かった。主な有用広葉樹の用途としては、ケヤキ、ヤマザクラ、ミズメは建築材として、カシ類、シイ類は器具材（主に柄材）として、その他クスノキは家具材としての需要が高く、市場によって出材される樹種に地域性がみられた。

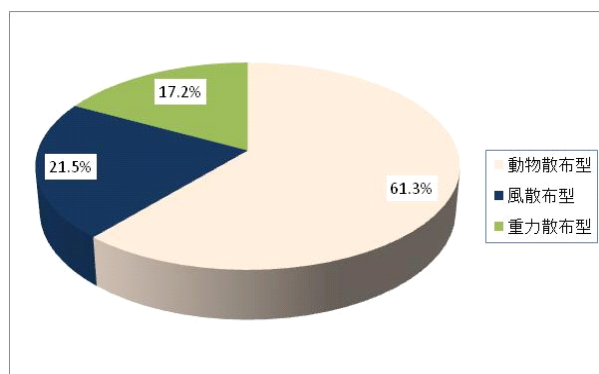


図 2 有用広葉樹の種子散布型の分類